

## 地域包括ケア病棟 摂食嚥下機能評価目的入院のお知らせ

当院は、在宅におられる方で、摂食嚥下機能の評価を希望される方の受け入れを行っています。詳細は以下の通りです。

### (内容)

- 入院4日目に、嚥下造影検査（VF）を実施します。患者様の状態により、嚥下内視鏡検査（VE）に変更となる場合があります。
- 昼食時、言語聴覚士（ST）による摂食嚥下訓練を実施します。（平日）
- 退院前にはカンファレンスを実施し、検査結果や訓練内容、退院後に注意する点などをお伝えします。

### (対象となる方)

- 医師や看護師などの専門職により、嚥下機能の評価がある程度されている方

### (入院期間)

- 原則、12日間の入院となります（月曜日にご入院して頂き、翌週金曜日にご退院となります）。

### (その他)

- 嚥下造影検査（VF）は誤嚥のリスクがあります。事前に担当者より検査内容について説明させて頂き、同意書にサインを頂戴します。



年齢とともに摂食嚥下機能も低下してきますが、ご本人も周りの方々も気づきにくいことも多く、誤嚥性肺炎になる前に検査を受けて頂ければと思います。施設や自宅で、できるだけ長く安全に楽しく食べ続けていけるよう、私たちも協力させていただきます。

検査を受けた方がよいかどうか迷われているときは、地域医療連携室へご相談下さい。

リハビリテーション科主任 言語聴覚士 草野 由紀

### 嚥下造影検査（VF）について

（方法）透視下で造影剤（バリウム）の入った食品を実際に口から食べて頂き、口から食べる機能に異常がないか調べる検査です。所要時間は、準備なども含めて40分程度です。当院では、1階放射線科のレントゲン室で実施します。

（検査の説明と同意）医師より検査の説明をさせて頂き、同意書にサインを頂戴します。



### 嚥下内視鏡検査（VE）について

（方法）鼻腔から、細い内視鏡を入れて実際に食べている様子を観察します。カメラで観察しますので、検査に使用する食事は実際に食べている食形態や、嚥下機能に合わせて用意した食形態となります。口腔内の粘膜は赤いので、食べ物によっては食用色素（緑色）を使用させて頂きます。所要時間は、準備などを含めて40分程度です。検査は病室で実施しますので移動をする必要はありません。

（検査の説明）医師より検査の説明をさせて頂きます。



### 嚥下造影検査（VF）と嚥下内視鏡検査（VE）の違いって？

どちらも摂食嚥下障害が疑われる患者さんに対して嚥下機能を知ることを目的とした検査ですが、それぞれ特徴があります。

**嚥下造影検査（VF）**は、食べ物が口から入って咀嚼して飲み込むまでの食べ物のようすを評価でき、誤嚥の瞬間も映像で確認が可能です。しかし、検査専用の車椅子へ移乗できること（リクライニング式）が条件となり、検査食も造影剤入りですので、普段食べているものとは異なります（食形態は同じような物になります）。また、微量ですが被爆もします。

**嚥下内視鏡検査（VE）**は、病室で実施可能ですので、車椅子への移乗が難しい急性期や寝たきりの患者さんに適しています。また、実際の声帯の動きや唾液の貯留、粘膜の状態なども評価できます。普段の食事での評価が可能です。しかし、嚥下後にどこに色素や食べ物が付着しているかで評価は可能ですが、嚥下の瞬間は体の構造上、カメラで観察することができません。また、咀嚼運動の様子は観察できません。

その他にもさまざまな違いはありますが、その方に適した検査を選択して実施させて頂きます。

### 言語聴覚士（ST：Speech-Language-Hearing-Therapist）の紹介

失語症訓練、構音障害、摂食嚥下訓練、聴覚障害児の発声・構音訓練、発達障害児の言語訓練・構音訓練、舌や喉頭切除後の発声訓練など、訓練内容は多岐にわたります。当センターは5名所属しており、失語症訓練や構音訓練、摂食嚥下訓練を中心に行っています。

